

「羽曳野丘陵東の遺跡を歩く」

- ・実施日 令和 7 年 2 月 23 日(日)
- ・集合 近鉄古市駅
- ・行程 近鉄古市駅→翠鳥園遺跡→浄元寺山古墳・西墓山古墳→はさみ山遺跡→蕃所山古墳
→応神陵古墳外堤→盾塚古墳→三塚古墳→道明寺天満宮→玉手橋→国府遺跡
→築留二番樋 解散
- ・案内 鈴木朋美 学芸課主任研究員

【感想文 12 月例会だより】

2 月 23 日(日)、今年初めての歩く例会に参加するため、近鉄・古市駅東広場に 100 名超の会員が集合しました。今回のコースは、昨年 12 月開催の予定が都合で延期になったものですが、2/1 に始まった博物館の特別展示「二上山にはじまりを求めて」に合わせてこの時期での開催となりました。

講師は、橿考博の鈴木朋美主任研究員。まずは、集合場所の東広場で、本日の見学コースの概要等の説明を受けたのち、早速に出発。駅前から住宅街を歩いていくと、ほどなく府営団地の中に、モダンなモニュメントが印象的な「翠鳥園遺跡」に到着しました。ここの遺跡がすごいのは、2 万 5 千点という石器の出土数もさることながら、数百にのぼる接合資料があるということだそうです。石器本体のみならず製作時に生じたかけら(剥片)を集めて再接合していくと、最初のサヌカイト礫にまで復元することができたとのこと。博物館の展示や講座例会でも説明がありましたが、3D パズルのような復元作業は興味津々でした。突然に作業を中断してどこかへ行ってしまったようなこの遺跡の状況に、数千年の昔、いったいここで何が起こったのか、それも想像力をかきたてます。

その後、点在する浄元寺山古墳、西墓山古墳、蕃所山古墳といった小規模の古墳を見学しながら、応神天皇陵古墳へ向かいました。蕃所山古墳は、本当に道路の真ん中にたたずむ円墳で、ロータリーのように周りを人や車が通り抜けていて、すっかり生活に溶け込んだ様子が印象的でした。応神陵は外堤部の河川付け替え工事の際に発見された旧石器のお話を聞きながら通過し、北側の盾塚古墳へ。こちらも府営団地の真ん中にある復元された古墳で、ここで昼食休憩となりました。

昼食後は、三ツ塚古墳の横を見学しながら通過し、道明寺天満宮で小休止。ここでは、先ほど見学した三ツ塚古墳で発見された修羅(運搬用のそり)の復元品を見ることができました。境内は、梅が咲き始め、猿回しも出ていて、穏やかな早春の雰囲気でした。その後、道明寺の商店街を抜け、石川に掛けられた昭和初期の吊橋・玉手橋を見ながら、河川敷を北上し、国府遺跡へ。ナイフ型石器で有名な遺跡ですが、末永先生をはじめとする諸先生方による関西での旧石器発見という一連の興味深いお話を伺いました。

近鉄・道明寺線のビュースポット・大和川橋梁を横に見ながら、最後の見学地である築留三番樋・二番樋へ。明治期のインフラ工事の遺跡ですが、そこで教わった、レンガ積みの手法、レンガの長い面と短

い面を横に交互に積んでいくフランス積みと、縦に交互に積んでいくイギリス積みの2種類について、その後もレンガ積みの遺構を見かけると、英仏どちら？ が気になって確認するようになりました。旧石器遺跡という目に見える遺構の少ない分野について、いろいろなエピソード等を交えて興味深く解説していただいた鈴木先生、本当にありがとうございました。

東京都 岡崎雅彦

【記録写真】



古市駅前朝礼



翠鳥園遺跡



蕃所山古墳で説明



石川沿いを歩く